北見医師会

地域医療を守る医療者と市民の集会

北見医師会理事　森　本　典　雄

今やわが国の医療崩壊は新聞の話題ではなく、われわれの地域でも現実的に北見日赤内科の縮小や道立北見病院の廃止計画など、地域の医療崩壊が始まっている。市民の安心・安全が損なわれ、市民の不安が増大している。このような事態に、われわれ医療人は積極的に行動すべきであり、今回の市民集会を開催した目的を説明する古屋会長の挨拶があった。

次いで旭川より来北された北海道医師会常任理事・直江寿一郎氏より、ご挨拶があった。

基調講演は北見医師会理事・小職が行った。

「日本の医療の現状」

日本の医師数の絶対数は少なく、1983年の吉村仁厚生省保険局長の医療費亡国論に基づく政策の誤まりに起因している。国の医療費抑制政策を見直さなければ、日本の医療は崩壊する。医療と教育に経済の論理が入り込む余地はなく、東大名誉教授・宇沢弘文先生が提唱する、社会共通資本により医療を守る必要性を市民に訴えた。

パネルディスカッション

「北見地域の医療をどう守るか－北見赤十字病院の内科診療縮小と市民の安心・安全」では、「患者の立場から」北海道難病連北見支部支部長・嵐　慎一氏が、北見日赤内科縮小に伴うリウマチ専門医の不在における患者の不安を難病連集会でのアンケートをもとに発表した。

「北見赤十字病院の対策」北見医師会理事・荒川穣二氏は、内科体制は4月から2名の医師が派遣されるが今後も医師確保には大きな課題がある、また北見赤十字病院の救急体制として一次救急の問題点を指摘した。

「医療崩壊を防ぐための地域医師会の役割」では、北見医師会理事・小野寺栄司氏は北見赤十字病院における夜間救急のコンビニ化の背景には、有床診療所の激減により一次医療での夜間診療体制の縮小があること、また、かかりつけ医を基にした病診連携の必要性を訴えた。

「行政の立場からの取り組み」北見市役所保健福祉部長・堀内博美氏は、身近な「かかりつけ医」を有効に活用しながら症状に応じた医療の役割分担や、一次・二次・三次医療の連携による市民との地域医療のシステムづくりの一つとして、医療福祉マップを作成し4月に配布することを説明した。

「議員の立場からの取り組み」では、北海道議会議員・船橋利実氏が、地方(僻地)への医師派遣、旭川医大・札幌医大の入試における地域枠の増員案が説明された。道立北見病院の存続についても発言された。また地域医療の支えとなる地元の医師を大切にする市民の意識の必要性を訴えた。

その後、市民からの質問・ご意見もあり、活発な討議が行われた。参加者は221名であり、最後に北見市市長・神田孝次氏のご挨拶で閉会された。

日　　時：平成20年3月19日(水)午後6:30～8:30
場　　所：北見芸文ホール
挨　　拶：北見医師会会長　古屋聖兒
基調報告：北見医師会理事　森本典雄
　　「日本の医療の現状」

パネルディスカッション
「北見地域の医療をどう守るか
－北見赤十字病院の内科診療縮小と市民の安心・安全」
座長　　北見工業大学　教授　川村　彰

パネラー
1)「患者の立場から」
　北海道難病連北見支部　支部長　嵐　慎一
2)「北見赤十字病院の対策」
　北見医師会理事　荒川穣二
3)「医療崩壊を防ぐための地域医師会の役割」
　北見医師会理事　小野寺栄司
4)「行政の立場からの取り組み」
　北見市役所　保健福祉部長　堀内博美
5)「議員の立場からの取り組み」
　北海道議会議員　船橋利実